

A group of people are kayaking on a vast, blue sea under a clear sky. In the foreground, the back of a person wearing a blue long-sleeved shirt and a large, light-colored straw hat is visible. They are holding a blue paddle. The water is a deep blue-green, and several other kayakers in colorful gear are scattered across the horizon. In the distance, there are green, hilly islands or mountains. The overall scene is bright and sunny.

SDGsに学ぶ

子どもたちの豊かな海づくり

実施報告書

実施団体：Team JIN「仁」

2019年度なぎさの環境基金プロジェクト事業

事業概要

背景

- ◇ 呉市は、温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれていることから、沿岸部では潮干狩りや釣りなどの行楽が盛んでした。しかしながら、近年は、水産資源の減少や海洋ごみの増大などの影響によるのでしょうか、海辺での遊びや憩いを求める子どもたちや家族連れが少なくなってきたようです。
- ◇ 一方、一昨年より取り組んできた小学校での環境学習や水産教室をきっかけに海の問題や水産物に関心を寄せる児童が増加しつつあります。こうした中、児童が主体的に実施する海岸清掃は、PTAや地元自治会の協力と理解が得られるという、地域に根ざした活動に進展してきました。
- ◇ 今年度は、漂流するプラごみ回収のための体制を整備するとともに大学生と学ぶ機会を創出することで、活動の領域の拡大と関係人口の増大に取り組めます。



事業概要

課題・ねらい

【課題】

- ◇ シーカヤックを利用した活動を安全に運営するためのサポーター育成
- ◇ 清掃・回収活動の情報を適切に発信することによる関係人口の増大
- ◇ 『子ども・青少年版SDGsプログラム』の策定

活動 1 シーカヤックセーフティ・レスキュー資格者の養成

活動 2 自治体、テレビ局、新聞社等への取材申し込み

活動 3 広島女学院大学とのコラボからアイデア抽出

【ねらい・目標】

- ◇ 保護者の積極的参加の動機付け ⇒ 持続可能な活動としての体制づくり
- ◇ メディアやSNSによる認知度の向上 ⇒ 交流機会の創出と関係人口の増大
- ◇ 学生の柔軟な発想から習うプログラム策定 ⇒ 子ども自らで完結できる活動

実施内容

サポーター育成

◇ シーカヤックセーフティー・レスキュー講座受講：6名



ガイナカヤックス【島根県】より講師を招き開催 (2019.6.8)

実施内容

RCC中国放送の取材1

「ぶら島太郎の海魅人に会いたい」（「海と日本PROJECT」事業の一環）



番組ディレクターと打合せ

児童インタビュー

洋上収録

実施内容

RCC中国放送の取材2

◇ 漂流ごみ回収の様相を収録



スタッフ、児童、音戸高等学校カヌー部、広島女学院大学学生とともに！（2019.5.15）

実施内容

地域連携海岸清掃

◇ 児童の協力要請に応じて参加したPTA、自治会、安全協会：15名



マイクロプラスチックについて学びその発生の元になる発泡スチロールを回収！（2019.12.10）

実施内容

子どもSDGs事例

◇ 子どもたち自らで実践できるSDGsの具体的活動



実施内容

子どもSDGs事例



4時間の活動で米袋（30L）15袋の竹炭を作りました ⇒ 農業用資材としての効果を検証中

ふりかえり

活動の成果と今後の課題

メディア・SNS（BLUE SHIP）等の活用

活動への理解・認知の向上 ⇒ 共感や感動、達成感を共有！
サポーターの育成（9名） ⇒ 安心・安全で継続的活動に！

子どもたちの探求心による地域密着型SDGs

廃棄カキ筏の資源化 ⇒ 環境に配慮した持続可能な水産業に
回収カキパイプの買い取り制 ⇒ 環境負荷に対する業界の負担

見えたこと

子どもたち、青少年の創意と行動⇒地方創成の活力に！！

子どもたちが身近な問題を自分ごととして認識することができれば、「あるべき姿」と課題が明確になり、地域の活性化を誘発！！

おわりに

将来展望（当面の活動）

子ども、青少年の感性による社会問題の解決をサポート

- ◆ 子どもたちが、青少年や地域の住民とともに交流ができるイベントを継続的に企画、開催（6月：豊かな海づくり大会）
- ◆ 子どもたちが、地域固有の問題を青少年や住民と共有し、ローカルSDGsを推進（7月：2030SDGsワークショップ）





To be continued